

令和2年度
教育委員会活動の点検・評価報告書

知名町教育委員会
令和3年9月

I 点検・評価の概要

1. はじめに

平成19年6月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、すべての教育委員会が「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価」を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に報告するとともに、地域住民に対して公表するように義務づけられた。また、その実施にあたっては、学識経験者の知見を活用するよう義務づけられている。

2. 点検評価の実施について

この点検評価は、教育委員会の会議による審議状況や教育委員による調査活動と、教育委員会の事務事業の執行状況について、実績や成果と課題を記述し、次に示す4区分により達成度の評価を行った。

点 数	内 容
4	順調に達成しているもの
3	おおむね順調に達成しているもの
2	達成見込みがあるが課題があるもの
1	順調でないもの

3. 知名町教育委員会の取組方針

今回で13回目となり、前回令和2年度の点検・評価を踏まえ、同様に評価項目を4段階での数値評価とした。前回は教育委員会関係と学校教育関係、学校給食センター関係の3項目とし、今回の評価項目は、社会教育関係と公民館・図書館関係について、教育長及び教育委員4名による自己点検、自己評価を実施し、評価委員の評価及び意見をいただき集約したものを本報告書にまとめ、令和3年9月の第3回町議会定例会で報告することとした。

(1) 社会教育関係では、評価項目を「(1) 社会教育指導体制の充実」「(2) 家庭教育の支援・充実」「(3) 青少年教育の充実」「(4) 芸術文化活動の促進」「(5) あしびの郷・ちなの活用」「(6) 文化財の保存活用」「(7) スポーツ・レクリエーションの推進」の7項目について、点検評価を行った。

生涯学習課の年間の行事、各種協議会開催内容、文化活動、文化財の活用、スポーツ大会開催状況やそれらの資料、課長の説明質疑をもとに、4段階の数値による評価と記述による意見をまとめた。

(2) 公民館関係では、評価項目を「(1) 公民館講座の充実」「(2) 自治公民館長研修会の充実」「(3) 短歌コンクール実施」「(4) 町民作品展示会の開催」「(5) コミュニティづくり推進協議会の開催」「(6) 成人式の実施」「(7) 弓削政己寄贈文献史料の整理」「(8) 施設整備」の8項目について点検評価を行った。

中央公民館の年間をとおした講座や教室など、各種事業の開催状況やそれらの資料、館長の説明質疑をもとに、同様の数値による評価と記述による意見をまとめた。

(3) 図書館関係では、評価項目を「(1) 図書館運営の充実」「(2) お話宅配便の充実」「(3) 図書館まつりの充実」「(4) ブックスタートの充実」「(5) おはなしの時間の充実」の5項目について点検評価を行った。

お話宅配便の実施など、図書類の年間をとおした活用推進、各種事業の開催状況について、館長の説明質疑をもとに、同様の数値による評価と記述による意見をまとめた。

教育行政評価委員

役 職 等	氏 名
元 教 員	沖 野 富 秀
元 町 職 員	栗 尾 廣 美

II 点検・評価結果

1 社会教育関係

評価項目	評価の観点	評価
(1) 社会教育指導体制の充実	社会教育指導体制の充実を図り、町民の多様な学習要求に応えて、学習機会の拡充と学習の気運づくりに努めているか。	3.1
	(反省・意見)	
	社会教育法に基づき、社会教育委員会を開催し、社会教育に関する諸立案や意見交換を行った。	
(2) 家庭教育の支援・充実	町民の意見を取り入れ、各種イベントに工夫を凝らし、学習機会の充実と、気運の醸成に努めた。	3.1
	(反省・意見)	
	家庭の教育力の向上を目指し、家庭教育支援員による家庭教育学級での保護者向けの講話を実施。また、専門家を招聘してのSNS等に関する学校講演、SNS等を活用しての相談業務を行った。	
(3) 青少年教育の充実	家庭や地域の教育機能の活性化を図り、実践活動を通して、豊かな心をもった青少年の育成と自主活動ができる青少年団体の育成が図られているか。	3.5
	(反省・意見)	
	知名町青少年育成連絡協議会（年5回）を開催し、地域子ども会活動の活性化を図った。	
	青少年にふるさとのよさを再発見させ、地域ぐるみで青少年を育てる気風づくりを促進するため、青少年ふるさと美化活動・おはよう読書会・郷土に学び・育む運動を実施した。	
	地域で主体的に取り組むジュニアリーダーを育成するため、中学生2名を「鹿児島県ジュニアリーダー交流会」に参加させた。	
	他地域との交流事業として、和泊町及び沖縄県今帰仁村と3町村合同で2日間にわたり交流事業を実施。本町8名の小中高生が参加したが、コロナ禍であることから、今帰仁村の児童生徒とはオンラインで交流を図った。島の良さを再発見するための学習や体験や、コミュニケーションスキルを図るためのレクリエーション活動を行った。	
ふるさとの豊かな自然環境にふれるとともに、地域における実践的な子ども会活動のあり方やリーダーの役割等について学び、リーダーとしての資質向上を図るため、沖泊海浜公園にて小学5～6年生16名を対象にサマーリーダー研修を実施。KYT学習、人権学習、文化財学習、調理実習、自然観察、美化活動、レクリエーション等を行った。		

	<p>知名町の児童生徒の優れた個性を発見し、知名の子表彰として表彰した。心身ともに健康な青少年の育成を図ることを目的として、町内でがんばっている小学生・中学生・高校生の35名、2団体を表彰した。</p> <p>科学の楽しさやおもしろさを体験するための「科学の祭典」を実施。13ブース出展のもと、約140名が参加した。</p>	
(4) 芸術文化活動の促進	<p>町民の多様な芸術文化活動を支援するとともに、芸術文化団体及び知名町の文化を担う青少年の育成強化が図れているか。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、文化協会関連事業のほとんどが中止となった。</p> <p>沖之永良部民謡協会主催第9回沖之永良部民謡コンクール及び教師・師範免許試験が行われ、全ての出場者が日頃の練習の成果を発揮した。(新人賞部門3名、優秀賞部門7名、最高賞部門・教師試験各2名)</p> <p>生涯学習活動の発表の場として生涯学習フェスティバルは規模縮小しての開催となりましたが、文化協会加盟団体及び公民館講座生による舞台発表・作品展示を行った。</p> <p>青少年の演奏技術の向上と発表の機会の場として、第37回沖永良部コンクールを開催した。近年参加者が減少傾向にある為、各方面へ協力を依頼し、10年ぶりに参加総数50名以上で開催することができた。今後も継続していけるよう努力していく。(合計31組・55名出場)</p>	3.3
(5) あしびの郷・ちなの活用	<p>あしびの郷・ちなの効率的な運用と自主文化事業による住民参加型事業・鑑賞事業等の拡充が図られているか。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、外出自粛等ので我慢することが多くなった子供達へのプレゼント企画として、リモート配信による、「ケロポンズ生配信おやこコンサート」を令和2年8月23日(日)に実施し、各家庭での鑑賞を行った。(視聴者数3,600名(LIVE1,200名))</p> <p>令和3年1月9日(土)にみやまふれあいコンサートを実施。新型コロナウイルス感染症の影響により、日時を延期しての開催となったが2度目の緊急事態宣言等もあり、集客が伸び悩んだが、来場者にはプロの演奏家による優れた音楽を鑑賞していただくことができた。(出演:加羽沢美濃)</p> <p>令和3年2月23日(火)に開館20周年を記念して、住民参加型事業町民創作方言劇「ヒーヌムの生まれた海」を上演。町民に広く募集を募り、小学生から70代までの幅広い年代の町民が約半年間の稽古期間を経て、全編方言による創作劇を上演し迫真の演技で会場を沸かせた。(来場者合計445名※感染症の影響により席数1/2)</p>	3.2

	<p>新型コロナ感染症の影響により、各種事業が中止・延期となる中開催された事業においては、他会館や関係機関と情報共有し、ガイドラインに基づき感染対策を行った上での開館運営をすることができた。</p>	
(6) 文化財の保存活用	<p>歴史的な文化遺産や伝統芸能、埋蔵文化財の調査・保存・啓発活動は推進されているか。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>大津勘橋の風葬墓及び九本柱の高倉の現地見学、住吉幼稚園跡地で発掘体験・弓矢体験を通して町内の文化財の普及啓発を図った。</p> <p>サクダマタ古墓群7号墓（大津勘橋）の試掘調査を行った。調査の結果、11世紀～12世紀のカムイヤキ陶器片や同時期の人骨片があることが分かった。今後の群島の風葬墓の変遷を知るうえで貴重な遺跡の一つと考えられる。</p> <p>新城花窪ニヤート墓の保存整備を目的に、三次元レーザーを活用して石垣測量及び地形測量を実施した。</p>	3.9
(7) スポーツ・レクリエーションの推進	<p>町民のニーズに対応したスポーツイベントを開催し、町民参加型の拡充に努めているか。また、スポーツや健康づくりに関する情報提供し、生涯スポーツの普及に努めているか。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>【体育協会】 令和2年（2020年）はかごしま国体が予定されていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で令和5年（2023年）へ延期されることとなった。例年7月に開催されている大島地区大会については、新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止となった。県民体育大会については、国体開催年であったため、当初から中止が決定されていた。町民体育大会については、新型コロナウイルス感染拡大防止のために実行委員会にて中止が決定された。年明けの町内一周駅伝競走については、11チーム参加のもと行われた。2月7日には知名町主管において島内一周駅伝競走が19チーム参加のもと行われた。</p> <p>【スポーツ少年団】 新型コロナウイルス感染拡大防止のため計画していたほぼ全ての大会が中止となったが、7月25日にニシムタ・はなとりカップが和泊町で開催され、本町よりみさき夕焼け・西目の2チームが出場した。年末には規模を縮小して卓球大会を開催。</p> <p>【E LOVE】 令和2年度より地域総合型スポーツクラブとして認定され、スポーツ少年団の活動やフィットネスジムの管理運営を行っている。幅広い年齢層にスポーツの楽しさを教えるために、スポーツアカデミーを開催するなど、町民のスポーツへの参加を促す一役を担っている。</p>	2.5

2 公民館関係

評価項目	評価の観点	評価
(1) 公民館講座の充実	<p>公民館は、町民が生涯の各時期を通して学習の機会が得られるように配慮しつつ、町民のニーズに対応するべく多様な講座、教育等を提供する。また、学習意欲を高め、自主的、主体的な学習活動への参加促進を図った。白百合大学校1教室・受講生22人、中央公民館講座18教室・受講生273人、地区公民館講座2教室・受講生35人 短期講座1教室・受講生6人、自主講座4教室・受講生34人、総勢公民館講座受講生370人。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>コロナの影響で開講月(5月)が遅れたが(6月)、受講生の増加傾向は続いている。「自力整体」「歌って♪若返り」などの講座が好評だった。しまむに教室も定着した。白百合大学受講生に下げ止まりがみられる。講師の高齢化がみられ、後継者育成が必要である。</p>	3.3
(2) 自治公民館長研修会の充実	<p>事例発表を交えた自治公民館長(区長)研修会を開催して、集落がかかえている問題等について、共通認識を持ち課題解決の検討を行っている。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>田皆区長(避難所運営の実際)、正名区長(字誌発行)による事例発表。避難所運営については各区長とも関心が高く、有意義であった。字誌発行については、中央公民館側の協力(史料収集等)が必要である。</p>	3.5
(3) 短歌コンクール実施	<p>応募作品数1009首、小学生の部405首、中学生の部230首、高校生の部320首、一般の部54首の応募数、応募者数は564人でした。それぞれ短歌大賞・優秀賞・奨励賞・入賞を選出し毎年、生涯学習フェスティバルで表彰及び展示をしている。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>毎年千首をこえる応募があるが、一般の応募が少ない。</p>	3.4
(4) 町民作品展示会の開催	<p>資料室横の展示台に竹細工製品の展示、図書館事業の活動風景写真等を展示している。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>生涯学習フェスティバルでの展示のみでなく公民館での展示(展示期間の配分等を考えて)ができればと思う。</p>	2.4
(5) コミュニティづくり推進協議会の開催	<p>令和2年度の「重点実践事項」「申し合わせ事項」を決める推進協議会(令和2年3月)はコロナの影響により延期、中止となった。また令和2年度は同じくコロナの影響により、コミュニティづくり運動を進めることができなかった。</p> <p>(反省・意見)</p> <p>令和3年度に向けたコミュニティづくり推進協議会を令和3年3月23日に開催。「ふるさと美化運動を推進しましょう!」を重点実践事項として決めた。</p>	2.2

(6) 成人式 の実施	令和3年1月2日に予定していた成人式はコロナの影響により延期、その後中止となった。対象者は男45名、女25名、計70名であった。	2.2
	(反省・意見)	
	令和4年の成人式の準備を進めるとともに、民法改正により同年4月1日より成人年齢が20歳から18歳に引き下げられる。令和5年以降の成人式のあり方について、協議していく必要がある。	
(7) 弓削政己寄贈文献史料の整理	180箱、約一万点の文献史料。文献用と史料用の二室を、空調完備で整備。令和元年度には名古屋大学の研究者が調査を行った。多くの研究者が利用できるように、整理解読を進めていく。	2.7
	(反省・意見)	
	昨年4月、ある研究者の蔵書100箱が寄贈された。保管する場所がなく、会議室前廊下などに置いてある。学術本を保管する場所を確保する必要がある。	
(8) 施設整備	中央公民館入り口玄関ドア取替え、歴史資料室空調整備等。	2.6
	(反省・意見)	
	弓削政己寄贈文献史料の他、学術本が100箱寄贈された。多くはリサイクル本として活用するが、30箱ほどは学術本蔵書として保管する。保管場所(部屋)が不足しているのが、現状である。また、建築57年となる中央公民館は老朽化が激しく、雨漏り、天井裏崩落など危険な状態にある。早急に、改修(解体)等の方針を決める必要がある。	

3 図書館関係

評価項目	評価の観点	評価
(1) 図書館運営の充実	<p>職員 館長（公民館長兼任） 1名 司書（公民館主査兼任） 1名 臨時職員 3名</p> <p>休館日 月曜、祝日、月末資料整理日、年末年始、特別資料整理期間</p> <p>開館時間 4月～9月 午前10時～午後6時30分 10月～3月 午前9時30分～午後6時</p> <p>資料費 200万円（図書費143万円、雑誌、新聞、ビデオ57万円）</p> <p>蔵書数 54,201冊（うち児童蔵書 20,999冊）</p> <p>町民一人当たり蔵書数 9.34冊</p> <p>リクエスト受付 111件</p> <p>（反省・意見）</p> <p>本の貸出冊数は、47,375冊、住民一人当たりの貸出数は8.3冊で前回より0.7%の上昇がみられた。 町内に書店が無いので、図書館は住民のニーズにあった選書が求められる。前回に比べて貸出冊数は増えているが、感染症対策で利用制限を設けた期間に、貸出冊数を無制限に増やした結果だと考えられる。常連の利用者だけではなく、図書館を利用しない住民へのアプローチを講じ、継続して図書館利用者の増加を図る。</p>	3.8
(2) お話宅配便の充実	<p>感染症対策の為、11月のみ開催。読書週間に合わせ、各学校区の公民館を巡回して絵本の読み聞かせ・パネルシアター・エプロンシアターなどの実演、ミニ映画上映を通じて、子供達が、本に親しみが持てるように図った。</p> <p>総参加者数 48名 貸出総数 41冊</p> <p>（反省・意見）</p> <p>開催地区ごとに参加人数の差が大きく、参加者がいない地区もあった。また、参加しても読み聞かせやパネルシアターの実演のみを楽しんで、図書の貸出は利用しない児童が多数を占めた。図書館までの返却の手間を考えて「借りない」と判断されたので、学校や関係機関と連携して返却の手間を無くし、児童が純粋に読書を楽しめる環境作りが必要である。全体的に参加者が少ないので、町の各種広報を活用し、多くの町民に参加を促したい。</p>	3.1
(3) 図書館まつりの充実	<p>年1回、12月に開催。午前は創作方言ミュージカル脚本・演出を担当した金田一央紀さんによる「幸福の王子」の独演会及びクリスマス絵本の読み聞かせとビンゴ大会の実施。午後は「作って遊ぼう作って楽しもう」をテーマに、クリスマスリースやスライムの工作体験会を実施。</p> <p>総参加者 218名。</p> <p>（反省・意見）</p> <p>午前の部は、プロの独演会効果で、親子連れだけではなく多くの町民が参加し参加人数の増加につながった。今回の参加人数を継続して達成できるように、今後の企画を考える必要がある。 午後の部の工作は、例年6つ行っているのを4つに削減したが、密を避け、ひとつひとつの工作ブースを余裕をもって設置できた。</p>	3.7

(4) ブックスタートの充実	年5回図書館にて6ヶ月の幼児を対象に、オススめ絵本2冊、よだれかけ、県立図書館絵本ガイド等が入った「ブックスタートパック」を配布し、読み聞かせ方法の指導、指遊び、ベビーマッサージを行い、保護者同士の交流の場にもなった。	2.7
	(反省・意見)	
	参加者8名に配布。アンケートでは今後も実施して欲しいとの意見を頂いているが、子どもが6ヶ月を越えると保育園に入園するなど保護者の就業などで参加が困難な為か、案内を送付しても参加されない保護者もいる。実施時期など改善が必要。	
(5) おはなしの時間の充実	今年度から月末の木曜日午前に未就学児対象会、土曜日に全児童対象会の月2回実施。その月のテーマにあった絵本・紙芝居・エプロンシアター等の実施と簡単な工作を行っている。4月・5月は感染症対策の為中止。 総参加者 61名。	2.9
	(反省・意見)	
	知名校区の子供達の参加があるが、遠隔地の参加がない。参加する保育園の固定化がみられ、年々参加人数が減少しているので、各小学校やこども園等への呼びかけや周知を図っていく。	

Ⅲ 教育行政評価委員意見のまとめ

1 社会教育関係について

(1) 社会教育指導体制の充実

社会教育委員会を開催し、社会教育に関する諸立案に取り組まれているが、活性化を図るために、教育委員との意見交換の機会を設け、幅広く反映されるような体制にして欲しい。

また、社会教育委員のスキルアップのため、各種研修等に積極的に参加させて欲しい。

(2) 家庭教育の支援・充実

家庭での教育力の向上を目指して支援委員を中心に、積極的に支援・推進が図られているようであります。また、SNS等を利用する際の家庭でのルール作り、トラブル防止等も視野に入れ、更なる支援・充実を図って欲しい。

(3) 青少年教育の充実

青少年育成連絡協議会を開催(年5回)、青少年ふるさと美化活動、おはよう読書会郷土に学び・育む運動の実践、県ジュニアリーダー交流会への参加、サマーリーダーキャンプ等、本町の青少年が自分たちのふるさとに誇りを持ち、豊かな心を育みつつ、将来の地域のリーダーとして育っていくために、様々な機会を通して学びの場を提供することはとても大切なことである。今後もそれぞれの分野において成果を上げられるように取り組んで欲しい。

平成27年度から開催している科学の祭典は、新型コロナの影響があるなかでも、約140名が参加しており、多くの子ども達が科学の分野に興味を持っていることが伺える。これからの日本の将来を担うであろう子ども達に、科学を中心とした体験活動を通して、科学のおもしろさを発見し、生きる力の体得等を図るためにはとても有意義である。

「知名の子表彰」は、優れた個性を持ち、がんばっている子供・団体を直接表彰し、子ども達の励みとなり成長へと繋げることを目的としているが、今回は紙面での表彰となった。今後も継続していくことを期待したい。

(4) 芸術文化活動の促進

新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となった事業が多い中、生涯学習フェスティバル、民謡コンクール、沖永良部音楽コンクールを開催し、芸術文化活動の継続に努め、特に音楽コンクールにおいては、10年ぶりに50名以上の参加があり、コロナ禍の中でも演奏技術の発表の場があったことは素晴らしいことである。

(5) あしびの郷・ちなの活用

あしびの郷・ちな開館 20 周年を記念して上演された町民創作方言劇「ヒーヌムの生まれた海」は大変素晴らしいものでした。町民の生涯学習活動の一環として、また住民参加型事業として、幅広い年齢層の町民が協働で演劇を作り上げる喜びや演じきった充実感と自信・郷土への誇りに繋がる事業である。

また、リモート配信によるコンサート、みやまふれあいコンサートを開催し、町民がプロの音楽家の素晴らしい演奏を鑑賞する場の提供は、「教育・文化の町」を宣言する本町として喜ばしい限りである。町民にとっては、コロナ禍の中で心に潤いを得る良い機会になったのではないかと。厳しい中でも、新しい取り組みを推進して欲しい。

(6) 文化財の保護活用

本町には、国指定・県指定・町指定の文化財として種別では天然記念物・名勝・建造物・有形民族文化財・民族資料・史跡・芸能等が多くあり、その案内板や史跡の説明文も掲示してあり知名町のPRにも役立っている。

今回、新たに大津勘橋の風葬墓の調査により、中世期の陶器や人骨が発見されており、今後、群島内において貴重な遺跡として位置付けられることを期待したい。

また、町指定史跡「新城花窪ニヤート墓」の三次元レーザーによる測量を実施し、保存整備の準備を進めているが、「屋子母セージマ古墳跡」、「屋者琉球式墳墓」、「アーニマガヤトゥール墓」についても同様に進めて欲しい。

さらに、国指定の住吉貝塚の活用について、整備・活用委員会で十分な論議の上、地域にふさわしい活用方法を検討して欲しい。

今後、地域遺産の掘り起こしや史跡巡り講習会・体験活動等を文化財保護審議会と連携しながら、町内の有形文化財のPR及び観光と絡めた活用策を探ることも大切なことである。各集落の伝統芸能などの無形民俗文化財の保存、伝承についても保存会をバックアップして推進して欲しい。

(7) スポーツ・レクリエーションの推進

新型コロナウイルス感染症の影響により、かごしま国体の延期、大島地区大会、町民体育大会、校区の体育大会の中止など、仕方のないことではあるが、町民が心身共に健康であるためのスポーツ・レクリエーションの機会が少なくなっていることは大変残念なことである。今後は例年通り開催されることを期待したい。

今後NPO法人イーラブと連携したスポーツ活動も積極的に行って欲しい。

2 公民館関係について

(1) 公民館講座の充実

新型コロナウイルスの影響で、開講が遅れたものの総受講生が370人となり、増加傾向にあることは素晴らしいことである。町民のニーズに応えた講座の開設が受講生の増加に繋がっていると思われる。多くの受講生が自発的に学習し、その学習の成果を発表し、充実感を享受できることは素晴らしいことである。生涯学習フェスティバルの規模縮小の中で、公民館講座の発表の場があったことは良かった。

次年度以降例は年通りの出展、舞台発表ができることを期待したい。

白百合大学の受講生の高齢化、講師の確保等については、何らかの対策が必要と考える。

(2) 自治公民館研修会の充実

温暖化の影響により、災害の頻度と深刻化が懸念される中で、自治公民館は字運営に必要な集会などの各種行事の場のみならず、避難所としての役割も大きくなっている。実際の避難所運営の状況を研修会で共通理解することは、今後の避難所の円滑な運営に不可欠だと思われる。区長として地域に根ざした字運営及び行政と連携した避難所運営が出来るよう、更に研修の充実を図る必要がある。

また、字史の編さんに取り組んでいる字もあるが、中央公民館の協力を得ながら他の字も字史編さんに取り組むことを期待したい。

(3) 短歌コンクールの実施

毎年千首を超える応募があり、小・中・高生の応募者が例年多いのは、各学校の取り組みの成果だと思われる。一般の応募は、関心のある人だけに留まっているように思われる。

今後、広報の方法や募集期間の再考等を通して、婦人会や老人会、白百合大学等の組織に働きかけ、団体活動の一環としての俳句・短歌づくり等を推進する必要がある。

(4) 町民作品展示会の開催

生涯学習フェスティバルで沢山の出品・展示があるが、その時だけで終わるのではなく、年間を通じて中央公民館の展示コーナー等で展示して欲しい。期間毎に作品を入れ替えメリハリのある展示コーナーにしてはどうか。

また、展示替えがあった時には、防災行政無線などを使って広く広報して欲しい。

(5) コミュニティーづくり推進協議会の開催

新型コロナウイルスの影響により、コミュニティーづくり推進協議会が開催できなかったため、「重点実践事項」が決定されなかったが、このような状況の場合に今後は、紙面開催による決定も検討してはどうか。

この数年は「ふるさと美化運動を推進しましょう！」が重点実践事項になっているが、依然として、特に農道での空きカンのポイ捨てが多く見受けられるので、徹底して運動を進めていってほしい。

「申し合わせ事項」の浸透のためには、町当局の広報は勿論のこと、推進協議会に

参加している各種団体の代表等がそれぞれの団体会員に会合等で説明し、理解させる事が肝要ではないかと思う。特に字区長は、総会や常会等で字民に説明して実践状況を把握させる必要があると思う。さらには、推進会員や官公庁職員は、祝日の国旗掲揚・美化活動・持参金等の実践を率先垂範して浸透を広げていく必要がある。

(6) 成人式の実施

成人式の準備を進めている中で延期となり、最終的には新型コロナウイルス感染症感染防止のため中止となり残念であった。

来年度は、例年通り開催されることを期待したい。

(7) 弓削政己寄贈文献史料の整理

約一万点にのぼる弓削政己氏の寄贈文献史料及び新たな蔵書 100 箱は、奄美諸島及び沖永良部島史を研究する上で、貴重な史料である。弓削氏の寄贈の目的、「知名町を奄美諸島史研究の拠点にしてほしい」という遺言を達成するために、整理事業の人的、組織的体制を早急に確立してほしい。

(8) 施設整備

老朽化による屋根裏コンクリートの爆裂、落下があり、本町の公民館講座の拠点施設及び歴史資料拠点施設として、継続使用が危ぶまれる状況にある。機能の一部をあしびの郷に移すことを検討する必要がある。

3 図書館関係について

(1) 図書館運営の充実

図書の貸出冊数 47,375 冊、町民一人当たり 8.3 冊は、県下で毎年のように上位にランクされており、蔵書数も 54,201 冊（うち児童蔵書 20,999 冊）町民一人当たり 8.34 冊と充実した図書館経営がなされている。新型コロナウイルスの影響で図書館の利用制限等もあった中で、貸出業務は継続し、貸出冊数の制限を無くするなど、利用者目線での運営がなされている。

(2) お話宅配便の充実

新型コロナウイルスの影響で1回のみで開催であったが、各学校区の公民館を巡回しての読み聞かせやパネルシアター・エプロンシアター等の実演を通して本に親しむ機会を提供していることは読書活動の推進につながる大変素晴らしいことであり継続して実施して欲しい。読み聞かせやパネルシアター実演のみで貸出の利用者が少ないことについては対策を講じて欲しい。

(3) 図書館まつりの充実

プロによる独演会や読みきかせ、工作体験などを通して、本好きな子どもを育てる取り組みは大変良いことである。

コロナ禍の中でも、多くの親子連れや町民の参加があり、本へ関心を持ち、図書

館へ足を運んでもらうきっかけになっている。今後も趣向を凝らした企画を期待したい。

(4) ブックスタートの充実

6か月の幼児・母親を対象に「ブックスタートパック」を配付して、読み聞かせ方法の指導、ベビーマッサージ、指遊びを通して親子に本に親しんでもらう取り組みは大変素晴らしいので、今後もますます参加者が増える工夫をして欲しい。

(5) おはなしの時間の充実

毎月2回その月のテーマにあった絵本・紙芝居・エプロンシアター等を実施して、本好きな子どもを育てる取組は素晴らしいので今後も継続して欲しい。

知名地区以外の子どもの参加が少ないのは、交通手段等やむを得ない事情があると思うが、子ども園のバスを運行してもらうなどの工夫も検討して欲しい。

また、参加する子どもが減少しているので、参加したくなるような工夫をして欲しい。

(6) その他

新しい取組として、車両を購入して移動図書館事業が計画されているようですので、今後の利用者の増加に繋がることを期待したい。

[総 評]

令和2年度については、教育委員会生涯学習課が担当している社会教育関係・公民館関係・図書館関係の各分野について、1年間の事業実施内容とその自己評価及び成果と反省点・課題等について、生涯学習課長、公民館長兼図書館長から具体的に説明を受け評価を行った。

令和2年4月1日に島内で新型コロナの感染確認以降、多くのイベントが中止、延期、規模縮小など、これまで経験したことのない事態となった。

このような中でも、町民が生きがいを持ち心豊かに充実した生活を送るために工夫をし、継続できた事業もあり、成果を上げていることを評価したい。

今回の自己評価及び成果と反省点・課題等を踏まえて、更なる成果を目指すとともに今後に残されている課題への取組が計画的に推進されることを期待し、意見とする。